

1年生

教科	成果	課題	重点取り組み
国語	<ul style="list-style-type: none"> 字形や書き順に気を付けて平仮名を書くことができるようになった。 文章を読んで、内容や感想などを伝え合うことができるようになった。 音や言葉のリズムを味わいながら楽しく読み、音読劇にも意欲的に取り組んでいた。 読書に親しみ、興味をもっていろいろな本を読む姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「は、を、へ」や促音、拗音や句読点を正しく表記する力を身に付けること。 ◎文章を読んで理解する力の個人差が大きいこと。 ・互いの話に関心を持ち、内容を正確に理解できるようになること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わる文を書くことができるように授業などで文章を書く機会を多く取り入れる。 ・文章を読んで理解する力を育てるために、日頃から文章を読み返す習慣を付けていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数に対して興味をもち、日常生活の中で数を数えることを積極的に行う様子が見られた。 ・具体物や絵を見ながら問題を読み取り、立式することができるようになってきた。 ・計算カード練習を奨励し、たし算、ひき算の定着を図った。簡単な加減計算は多くの児童が速く正確にできるようになった。 ・具体物の操作や図などを活用しながら、筋道を立てて考えを進める経験を積み、自力解決できる児童が育ってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎具体物や、図、式などを使って、順を追って考えを進めたり、自分の考えを適切に表現したりする力に、個人差が大きい。助言や支援の必要な児童が多い。 ・問題を一人で読み取り、自力解決することに課題がある児童がいる。 ◎これまでの数に対する感覚や経験の差が大きいため、問題を理解し演算決定するまでの時間の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を操作して理解を深めたり、図や式で問題場面を表したりする機会を多く設定する。助言や支援によって、自力解決する経験を積みさせていく。 ・日常の場面を想定させ、数に対する感覚を身に付けさせる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・朝顔の栽培を通して、成長を喜ぶ姿がたくさん見られた。 ・朝顔の観察記録を書く視点を、国語の学習と連携しながら学ばせることができた。 ・学校生活に慣れて、きまりや約束を意識して過ごすことができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見たことを絵や文章に表す力がまだ十分育っていない児童がいるため、観察記録を書く力の個人差が大きいこと。 ◎他学年と交流する機会が少なかったため、上学年と交流して、触れ合ったり教わったりするということの良さを味わわせることが難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおやチューリップなどの栽培を通して、動植物の命の大切さを感じられるようににする。また、次年度の1年生のために、プレゼントの首輪を作ったりチューリップの鉢を飾ったりすることで、相手を喜ばせるために活動することの良さに気付かせる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて、楽しく体を動かしたり、拍に合わせてリズムうちをしたりすることができた。 ・季節の歌や校歌などを伴奏に合わせて楽しく歌ったり、簡単な打楽器や鍵盤ハーモニカの基本的な奏法を身に付けたりすることができた。 ・曲を聴いて、聴こえてきた音や想像したことを伝え合うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音色や奏法に気を付けて旋律楽器や打楽器を演奏する能力に個人差が大きい。個別対応が必要な児童がいる。 ◎友達の歌声や、友達が演奏する楽器の音をよく聴きながら自分の音を合わせて演奏することが難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員での演奏だけでなく、ペアやグループ演奏を取り入れ、互いの音を聴きながら演奏する機会をもち、聴く力を育てる。 ・日常の授業の中で、音や声を「聴く」という姿勢を大切にするように声かけを行う。

<h1>図工</h1>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の好きなものや好きなことを思い浮かべて発想を広げ、楽しく制作活動や造形遊びに取り組む児童が多い。 • 作品を見合うことを楽しみ、良さや工夫に気付く児童が多い。 • 材料や道具などの用意、使い方、後始末など自分でできることが増えた。 	<p>◎発想や、構想には個人差があり、自分の思いを形に表すことに自信がなかったり、やることの理解に時間がかかったりし、なかなか制作に取り掛かれない児童が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 絵の具やはさみ等の使用の基本について、さらなる定着を図り、全員が安全に活動できること。 	<ul style="list-style-type: none"> • 制作の過程の中で、個々の児童へのひらめきや表現を肯定的に受け止め、称賛する声掛けをし、自分らしさへの自信につなげていく。 • 児童が制作活動のイメージをもつことができるように、資料を多数用意したり活動に入る前に意見をたくさん出させたりする。 • はさみや絵の具セットの正しい使い方などが分かりやすいように、視覚的に学べる機会を多くし反芻する。
<h1>体育</h1>	<ul style="list-style-type: none"> • 校庭の遊具を使い、体を動かす経験をさせた。繰り返し取り組むことにより、それぞれの技能を高めさせることができた。 • 運動に対する興味・関心が高く、学習したことを休み時間にも練習し上達していく児童が見られた。 • 場や活動を工夫し、友達と一緒に体を動かす楽しさを味わいながら、互いのよい動きを学び合うことができた。 	<p>◎運動経験の個人差が大きい。運動経験が少ない児童の中で、恐怖心からなかなか助言を受け入れられない児童は、技能の上達が難しかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 決められた時間の中で、十分な運動ができるよう、授業の流れを工夫し、運動量を確保すること。 • 運動経験が豊かで、動きの工夫や広がりを考えられる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 休み時間の外遊びの推奨を徹底していく。教師も共に活動し、運動経験の少ない児童に体を動かして遊ぶ楽しさを味わわせ、運動能力向上への意欲につなげていく。 • 取り組ませる運動遊びを誰でも楽しく活動できるものにし、児童の「できた」を実感させてあげるようにしていく。